

「マラウイの交通事情」

こんにちは。私は、アフリカのマラウイに今年 1 月に着き、家畜飼育隊員として任務に当たっています。主な活動はマラウイ人に牛の農民人工授精師になって活動してもらうべく、技術を伝えることと共に、牛の飼養管理技術のアドバイスなどです。

今回はマラウイの交通事情の中でも特にミニバスについてお伝えいたします。

マラウイの主要な公共交通機関はミニバス、マトーラ(軽トラック等の荷台に乗車するものです)、チャリマト(自転車後部の荷台に乗車するものです)、タクシーです。飛行機、電車もありますが、これらは本数が少なく、ルートが極端に少なく、私たち青年海外ボランティアは利用することはほとんどありません。

ミニバスは公共バスとして運行していますが、日本のような大型バスが定時運行しているのとは異なり、ワンボックスカー(シートが造設され、定員は15名です)が満員になり次第発車しますので、通常は数十分間、車内にて待つこととなります。定員以上に乗ることも多く、終点に着いたときには20人も乗車していたこともあります。また、マーケット(市場)方向に向かう時には生きた鶏やトマトなどを手荷物として乗せるマラウイ人もいます。

ミニバスを始め、車体の大半は日本製の中古車で、側面に日本語で会社名などがプリントされたまま走っています。特にウインカー音は日本語のままなので「右に曲がります」と、マラウイにて聞くことが間々あり、日本を身近に感じる事ができます。また、フロントガラスにヒビが入っている車体や、スライドドア部分が振動と共に開いてしまうような車体も多く存在します。

乗車時の注意点として、料金と目的地は乗車前に交渉しておかなければなりません。なぜならば、マラウイ人にとって外国人である我々日本人は裕福に映ってしまい、高額な料金を吹っ掛けられてしまうことがあります。そのため、乗車後の集金で揉め事が起きないようにする事と、適切な料金で乗車するためにも交渉が必要になります。通常はコンダクターと呼ばれる方が同乗しており、乗車中に集金しますが、その際に目的地と乗車前に聞いた金額を再度伝えて料金を確認した後に支払う事が一番安全な乗車方法と言えます。

同乗しているコンダクターの仕事は集金だけではありません。窓から半身を乗り出して、目的地を叫びながら客引きをし、道を歩く人が手を挙げたりして応えると車体を叩いて運転手に合図を出し、乗車客がいることを伝えます。なおコンダクターは、バスデポと呼ばれるミニバスが数十台停車している始発地にて多く待機しており、どのミニバスが自分の目的地に行くかを尋ねると、親切に教えてくれます。

このようにしてマラウイで最も一般的な公共交通機関、ミニバスが運行しています。

次回は、他の公共交通機関についてお伝えしたいと思います。

それでは、Tionanabe!(ティオナナベ:また会いましょう)



ミニバス